工業っ子

No. 171
—発行日—
2018. 09. 07
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

平成３０年度 高校生ものづくりコンテスト九州大会

ハイレベルの戦いに果敢に挑んで

２部門で最優秀賞受賞

自動車整備部門＆電子回路組立部門

七月七日、八日に沖縄県で開催された高校生ものづくりコンテスト九州大会。長工からは四部門に出場し、二部門で最優秀賞、一部門で優秀賞を受賞しました。

《最優秀賞》余裕を持って実力発揮

自動車整備部門

パシフィックテクノカレッジ学院で行われた自動車整備部門。長工からはM２高崎海音さんが出場しました。

「九州大会では、県大会と違って課題を確認する時間があったので、余裕があった」と言う高崎さん。結果は、その言葉に恥じない最優秀賞。高崎さんは「自分が用意していたような課題ではなくて不安だったが、思ったよりも上手に作業できたので良かった」と大会の感想を話しました。

顧問の藤武宏先生によると「一程よく緊張して作業していた」とのこと。また、全国大会に出場することが決定した高崎さんに向けて「頑張ってください」とエールを送りました。

▲異常がないか点検（自動車整備）

《最優秀賞》並み居る強者押し退け

電子回路組立部門

沖縄工業高等学校で行われた電子回路組立部門。本校からはＪ３岩永怜也さんが参加し、技術を競いました。

結果は最優秀賞。受賞した感想を岩永さんに聞くと「県大会より高いレベル、その雰囲気があった。その中で勝てたことは良いこと。他の学校の選手も高い技術を持っていた。来年出場する後輩にも是非頑張ってほしい」と冷静に話してくれました。

また、顧問の山口秀昭先生は「岩永らしく、テキパキとした競技ができていた。君なら日本一になれる。その力は持っている」と選手に対する信頼を熱く話されていました。

岩永さんは十一月の全国大会に出場します。

▲黙々と作業（電子回路組立）

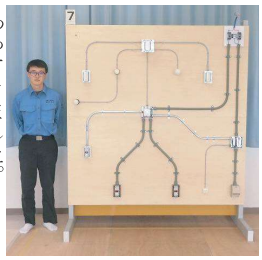
《優秀賞》悔しさバネに次こそ頂点を

電気工事部門

沖縄工業高等学校で行われた電気工事部門。長工からはＥ３松尾耕大さんが出場し、優秀賞を受賞しました。

松尾さんは「全体的にレベルが高くて、とても緊張した。練習通りにできたが、最優秀賞ではなかったので悔しい」と話す口調からも悔しさが伝わってきました。

顧問の久保憲一先生は「練習通り、落ち着いて取り組めていた。十一月に行われる、電気工事技能競技全国大会では頂点を取れるよう頑張ってください」と次への期待が込められた感想を話してくださいました。



▲作品と共に（電気工事）

「初めての大会いろいろ学べた」

家具工芸部門

浦添工業高等学校で行われた家具工芸部門。長工からはＩ２小山美咲さんが参加しました。

残念ながら入賞には及びませんでしたが、小山さんは「初めての大会で緊張し練習の成果を発揮できなかったが、いろいろ学ぶことができた。このことを次の大会で生かしたい。材料の厚みを半分ずつ欠き取って組み合わせ、隙間を作らないようにすることが難しかった」と今大会について話してくれました。

顧問の坂本隆司先生は「いつも通り落ち着いてできていた。大会前に腰を痛めるハプニングもあったが、練習にも参加し、大会まで持ち堪えてくれてホッとしている。小山さんはコツコツ努力できる人なので、来年はさらに上を目指して頑張ってほしい」と感想を話されました。

まだ二年生の小山さん。来年に向けての活躍を期待しています。

▲的確に打ち込む（家具工芸）

気合は十分！惜しくも銀賞

長崎県吹奏楽コンクール

七月二十一、二十二日の二日間で行われた「第六十三回長崎県吹奏楽コンクール」に長工吹奏楽部が出場しました。

大会前に「目標は金賞を取ること。音をブレンドさせることや表現を付けて吹くことを意識して練習を積み重ねてきました」とコンクールへの意気込みを力強く話してくれた部長のＩ３山田姫果さん。

コンクール当日。長工の順番は二日目の最後でした。演奏したのは、課題曲Ⅱ「マーチ・ワンダフル・ヴォヤージュ」と自由曲「祈りの手」です。会場の雰囲気にのまれることなく、圧巻の演奏を披露しました。しかし、結果は惜しくも金賞に届かず銀賞。昨年と同じ結果となりました。

▲演奏後の記念写真

演奏を終えて山田さんは「目標にはかなわなかったが、皆のおかげで良いコンクールになった。演奏はいつも通り、皆の気持ちが込められていたと思う。これまで可愛い後輩たちに囲まれて楽しい時間を過ごせた。これからも大変だけど、困ったときは支えるので頑張ってほしい」と話してくれました。顧問の馬場剛先生は「やり終えた、という気持ち。いつも通り部員たちは大変だけど、困ったときは支えるので頑張ってほしい」と話してくれました。顧問の馬場剛先生は「やり終えた、という気持ち。いつも通り部員たちは大変だけど、困ったときは支えるので頑張ってほしい」と話してくれました。

今日の一枚 ～暑い季節～

今日の一枚は、一棟と二棟の間にある広場の自動販売機の写真です。

連続して並ぶ「売切」の二文字。しかも、大きめのサイズばかり売り切れていました。暑いときに冷たいものを手に取ると、生き返った気分になります（死んだわけではありませんが）。それを求める生徒が多いことがよく分かりました。

体育祭を控えた二学期は、まだまだ水分補給が欠かせない時期です。体調管理をしっかりと行いましょう。

（中野）

青春日記

夏休みが終わり、二学期が始まりました。就職希望の三年生は就職試験目前。私も頑張ります。

夏休みも、新聞部はほとんど普段と変わらず活動していましたが、休みの日を利用してしっかりリラックスしました。

まず、海水浴。実は私、中学時代は水泳部に所属していました。久しぶりの水泳は気持ち良かったです。海水浴を楽しむ友人たちや、フェリーから見える景色、その後の会食の様子など、たくさん写真に収めました。家に帰って整理すると砂に埋められて笑顔を浮かべる姿や、波打ち際で水を掛け合う男たち、外食で気分が上がって自撮りする友人など、自分が思っていたよりもたくさん写真に収めていました。同じ仲間で行きたいです。

そして花火。中学時代の部活仲間と集まってしました。約一年ぶりに会う仲間たち。中学時代は色々と恥ずかしいことをしましたが、今となっては良い思い出。会話の内容も進学や就職の話で、成長を実感しました。

その花火の時に、同じ長工生が「このことを記事に書けばいいんじゃない？良かったね」と言ってきました。（渡部）

って書いてある記事は読んでる」とも。ネタまで心配してくれる友人に感謝です。

八月九日から十一日までの三日間行われた全国総文祭で、長工新聞部は「優秀賞」を受賞しました。数ある高校新聞部の中でこうして選ばれたのは光栄なことです。しかし、これに満足せずにこれからも日々精進していきます。

（渡部）

やっぱり、想像力

いじめやハラスメントといった問題は、絶えることがありません。たとえば、日本大学ラグビー部問題、体操、何だか、最近はスポーツ関連が多い気がしますが。皆さんの中にもこれらのニュースを耳にした人も多いと思います。

なぜ、いじめやハラスメントは起こるのか。毎年行われているいじめ調査アンケートでも「いじめはなくならないと思う」と答えた、という友人の話を耳にします。ここでは「ことば」について考えてみたいと思います。

ことばは自分の考えを主張するために必要不可欠な存在です。それだけでなく、相手と対話して協調することもできます。その一方で知らぬ間に他人を傷付ける凶器にもなります。その怖さは、つい た傷が直接目に見えないところにあります。転んで傷を負って血を流したりしていれば、痛そうだ、大丈夫だろうかと思うことができます。「ことば」で傷ついた時は目に見えません。その言葉を発した本人に自覚がなければなおさらです。

しかし、本当にその傷は見えないのでしょうか。言葉を受けた相手の表情や会話をする口調の変化、言われた相手の気持ちになって考える。想像力を働かせることで、その傷に気付くことができます。

辞書には平和の意味として「戦争や紛争がなく、社会が穏やかであること」や「心配や揉め事がなく、穏やかで変わりないこと」があります。心が傷付けられている人にとってその毎日は「平和」ではありません。

確かに、いじめをなくすのは難しいことです。しかし、何もしないというのは間違いです。普段の生活の中でちょっとした想像力、思いやりの心を持ち、時には自分を振り返ることで、そんなことから解決できる第一歩が分ずつ欠き取って組み合わせ、隙間を作らないようにすることが難しかった」と今大会について話してくれました。

顧問の坂本隆司先生は「いつも通り落ち着いてできていた。大会前に腰を痛めるハプニングもあったが、練習にも参加し、大会まで持ち堪えてくれてホッとしている。小山さんはコツコツ努力できる人なので、来年はさらに上を目指して頑張ってほしい」と感想を話されました。

まだ二年生の小山さん。来年に向けての活躍を期待しています。

（渡部）

H30若年者ものづくり競技大会

長工生の本領発揮 出場者全員入賞

八月二日に石川県で行われた若年者ものづくり競技大会。本校からは木材加工部門、機械製図部門の二部門に出場しました。出場選手、顧問の先生方に次の項目でインタビューしました。

質問内容
①出場選手
①出場しての感想／②練習で苦労したこと／③大会本番で大変だったこと
顧問
①感想／②選手の様子
③選手へ一言

銅賞&敢闘賞 制限時間との勝負 木材加工部門

◆銅賞受賞
I2岩田進吾さん
①先生方への感謝と共に場の空気を楽しめた。②時間内に完璧な作品を作ること。③状況に臨機応変に行動すること。

◆敢闘賞受賞
I3山口響輝さん
①敢闘賞は取れたが、納得できる作品ができなく時間ずっと集中することが大変だった。③特に無かった。

◆山口翔史先生
①今の実力は出せていたが、まだまだ力不足のように感じる。②最初は緊張していたが、一生懸命頑張っているのが伝わってきた。③来年の大会に向けて日々切磋琢磨してください。

▼各出場選手の皆さん、顧問の先生方お疲れ様でした。インタビューにもご協力いただきありがとうございました。

▼より精度を上げて（I３山口さん）

▲集中切らさずに（Ｐ２釜我さん）

敢闘賞 集中、集中、集中 機械製図部門

◆敢闘賞受賞
P2釜我海斗さん
①周りが騒がしい中で、集中すること。②一つの課題の練習に三時間半かかるので、その

▲満足のいく作品を（Ｉ２岩田さん）

ヨット団体優勝 運動部 九州大会 結果

▼優勝旗を掲げて

二年ぶりの優勝 女子ヨット部

六月十五～十七日にかけて宮崎県の大堂津ヨットハーバーにて行われたヨット競技九州大会。学校対抗一位となりインターハイ出場権を勝ち取りました。

この大会について主将のC３藤尾万唯華さんは「まだまだ力不足。どの高校も全国を目指し、気の抜けない緊張感あった。インターハイで必ず優勝して三嶋先生の首にメダルをかけたい」と話してくれました。顧問の三嶋由之先生は「全国の強豪校や世界レベルのチーム相手に果敢に挑む姿が逞しく見えた。高校から始めたメンバーながら、立派に立ち向かってくれた。私自身も誇りに思っている」と選手への想いを熱く語られました。

男子団体四位 フェンシング部

七月七、八に福岡県で行われたフェンシング九州大会。男子団体四位という結果でした。

主将のC３永松泰樹さんは「個人は三位だったが、団体は例年通り四位だったので悔しい。今後は個々のレベルアップを図りたい」と大会の感想を話してくれました。顧問の平康太郎先生は「入賞できたから良かった。

▲フェンシング部主将 永松さん

反省を次に生かす 水泳部（水球）

七月七、八日に沖縄県で行われた水球競技九州大会。残念ながら福岡工業高校に敗退し、インターハイ出場は叶いませんでした。

主将のP３岡凌翔さんは「九州二位として挑んだが、空回りしてしまった。今後はひたすら練習」と今回の大会を振り返っての感想を述べてくれました。顧問の坂本博文先生は「よく頑張っていたが、結果が全て。残念だが、この反省を国体予選に生かせたのは良かった」と話されました。

▲水球部主将 岡さん

「力は出し切った」 水泳部（競泳）

七月十四～十六日にかけて熊本県で行われた水泳九州大会。

大会を振り返ってE３原田樹さんは「後悔はあるけど自分の持ってる力全て出し切れた。後輩にはより多くの人が九州大会出場できるよう頑張ってほしい」と話していました。顧問の矢島貴文先生は「全員、自分のベストに近いタイムだったので、良かったと思う。引退する選手は悔いは無い表情だった」とのこと。先輩の想いを繋いでいけるよう頑張ってください。

▲水泳部主将 原田さん

本音を話して垣根をなくす ～育友会と生徒の懇談会～

育友会の方に感想を聞きました

七月二十四日に長工会議室にて毎年開催されている「育友会と生徒の懇談会」。育友会の方が七名、生徒は運動部や専門技術部、生徒会などから計十二名が参加。会では、スマートフォンの使い方や進路についてなどを話し合いました。

◆会長・松本律也さん
「去年に負けず劣らず良い懇談会だった。生徒の率直な意見が聞けた。親の立場からしても、貴重な話し合いだった」

◆副会長・谷口千代美さん
「子どもと保護者、お互いの考えを知ることができた。同感することもあれば、初めて知り理解することもあった」

実際に参加していた生徒にも話を聞くと「保護者と話す貴重な機会だった。参加できてよかった」（M３松本さん）「思っていたより話しやすくてよかった」（E３猪野さん）と話してくれました。

生徒の本音やそれについて真剣に考える育友会の方たちの意見も聞くことができ、とても有意義な会となりました。

▲新聞部員も参加

総文祭編 てふ工生！！！ パート③

～神様のいたずら（in長野）～

※我慢できなかった。

シリーズ ロボコン道 2

試行錯誤を重ねて

ようやく一年生の操縦型ロボットの配線が一段落しました。リモコンを使用して前後左右に動かせるようになり、旋回の動作もできるようになりました。しかし、たまにモータが回転せず思ったように動かないという問題が生じ、悩んでいます。そういったことがないように改良を施している最中です。

あらゆる試行錯誤を重ねて、大会までの残り少ない期間の中でラストスパートをかけていきたいです。

（M１ 玉置）

編集後記

夏休み中にしなければいけない取材が多くて毎日校内を駆け回った新聞部です。取材やアンケート集計以外にも、もちろん夏休みの課題にも追われ、大変な日々でした。

体育祭に文化祭、二学期もイベントがたくさん。できるだけ早く新聞をお届けできるよう頑張ります。

（松本）

一年生な☆日々

気付けば九月。長かった夏休みも終わり二学期です。皆さんは充実した夏休みを送ることはできましたか。私はとにかく忙しい夏休みとなりました。

高校生最初の夏休み。一番の思い出は、長野県で開催された信州総文祭です。年に一度、全国各地から新聞部が集まり、見ず知らずの人たちと班を組み、取材や交流新聞作りを行う全国総文祭。他の参加者は先輩ばかりで同級生はほとんどいませんでした。しかし、普段から先輩ばかりの中で部活をしている私は緊張することなく、むしろ、とても楽しむ事ができました。

しかし、楽しかったのもつかの間。二泊三日の総文祭を終えて家に帰ると、まだほとんど手をつけていない課題の数々が……。一気に現実に引き戻されてしまいました。絶え間ない部活や家事の手伝い、そして勉強に追われる日々。毎日が忙しすぎて時間がいくらあっても足りません。でもそう感じられるのも毎日が充実しているからだと思います。これから待ち構えている体育祭や文化祭など、二学期も充実した忙しい毎日を送っていきたいです。